

私たちの力で沼津駅の高架化を実現しよう



かけはし

主な記事

- 「キラメッセ沼津」(多目的展示イベント施設) …(1)
- 沼津駅周辺総合整備事業について…(2)
- Coffee Time 談話室 …(2)
- まちづくりQ&A …(3)
- 私の主張 …(3)
- 現地レポート …(3)
- 報告 まちづくりセミナー …(4)
- 会の動き …(4)

編集・発行／沼津駅の高架化を実現する市民の会 〒410-1832沼津市御幸町14-5(沼津商工会議所内) TEL<0559>31-1111代・FAX<0559>31-1115

沼津市は、東京から約百キロメートルに位置し、静岡県東部

沼津市の中心都市として、これまで栄えて来ました。

沼津市は、東京から約百キロメートルに位置し、静岡県東部の高い都市サービスの提供が期待されています。



「キラメッセ沼津」のイメージ図



人・もの・情報の交流拠点

「キラメッセ沼津」十月誕生

(多目的展示イベント施設)

新しい時代にふさわしい、静岡県東部の広域的な経済・文化の交流拠点「キラメッセ沼津」(多目的展示イベント施設)が今年の十月にJR沼津駅北口に誕生します。

市民の会事務局で、この施設について市に取材をしましたので報告します。

待たされ、県東部の中核都市としての役割が、以前にも増して求められています。いま沼津市発展の原動力として最も重要なものの一つである、都市の拠点性を高めるために、旧国鉄用地を活用した未来へ向けたまちづくりが進められています。

県東部最大の展示イベント施設

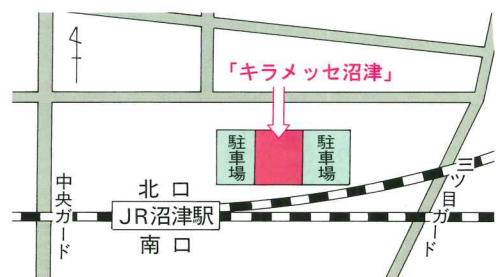
その先駆けとなるのが「キラメッセ沼津」(多目的展示イベント施設)です。

県東部初の大規模な展示イベント施設として、十月にJR沼津駅北口にオープンします。建設予定地は、JR沼津駅北口の東側に広がる旧国鉄清算事業団の用地内で県東部の中核となるべき役割を担う沼津駅周辺地区において、新しい時代を切り開く沼津駅周辺総合整備事業の先導的施設として、大きな意義を持つものです。

駅のそばで大型イベント

この施設の大きな特徴は、何といっても、その規模の大きさ

位置図

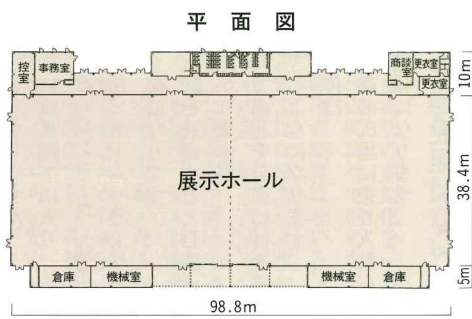


◆運動会・各種軽スポーツ講習会など
夜景に浮かぶ 淡い光の演出
この施設の屋根は、鉄骨の骨組みの上に、耐久性に優れ、光をある程度透す膜を張った、かまぼこ型をしています。夜間には、屋内の明かりによって幻想的な夜景を演出します。

◆施設の概要
▲構造 鉄骨・骨組み膜構造、平屋建て

◆展示面積 約三、八〇〇㎡(延床面積 約五、〇〇〇㎡)
※二分の一の分割使用も可能
◆天井高 七〜一五m
◆床面 アスファルト
(床荷重 一㎡当たり五t)

◆諸室 控室、商談室、更衣室
◆駐車場 三五〇台



◆開催イベント例
◆見本市・各種展示会など
◆講演会・式典・発表会など
◆コンサート・演劇・プロスポーツの興行など

※利用の申し込み/問い合わせ
沼津市役所・拠点施設整備課
☎〇五五九一三四一三五三

いま沼津駅周辺総合整備 事業は (市民の会調べ)

鉄道高架事業については、高架本体、新車両基地、新貨物駅の概略設計の作業が進められ、その結果、鉄道事業者から高架本体、新車両基地、新貨物駅の配線計画案の中間報告を受けました。

市が鉄道高架配線計画案を提示

これらの計画案については、今後、大きな変更は無いということなので、現在、鉄道高架事業に直接係わる自治会に対し、この中間報告の内容を説明し、意見や質問を伺っているところだ。

昨年十二月には新貨物駅(原西部地区)と新車両基地(片浜地区)予定地の役員を対象に説明会を実施し、本年一月より関係自治会を対象に同様の説明会を開催しています。

また、高架本体については、二月から五月にかけて、沼津市自治会連合会、鉄道高架事業に係わる連合自治会役員、自治会役員、住民を対象に説明会を順次開催しています。

まちづくりは話し合おう

市の施行する沼津駅南土地区画整理事業では、これまで、現況測量等の現地調査や、街づく

りの勉強会として、地権者による先進都市(掛川市)の視察会などを実施してきました。平成九年度は、五月と十一月に、駅南地区の街づくりについて、懇談会を開催しました。この懇談会では、区画整理の換地と減歩の仕組みについて説明がされ、市が作成した土地区画整理計画案や土地利用イメージ図などをもとに、街づくりについて話し合いを行うなど、地権者の理解を得るための取り組みを進めています。

地域振興整備公団が施行する静岡東部拠点特定再開発事業では、これまで、現況測量等の現地調査や、公共施設や土地利用等の街づくりに関する調査などを実施しました。平成九年度は、市と協働して、地権者に協力をお願いし、過年度に引き続き、測量を実施しました。また、六月と十一月には街づくりについての懇談会を開催しました。

この懇談会では、より多くの地権者の声を聞くため、小グループに分け、区画整理の換地と減歩の仕組みについて説明がされ、公団が作成した土地区画整理計画案や土地利用イメージ図などをもとに街づくりについて話し合いを行うなど、地権者の理解を得るための取り組みを進めています。

Coffee Time 談話室

A 鉄道の高架化って?

B 線路を上げることはかなりではないのです。色々ありますので、少しずつ話しましょう。

A この計画はいつごろからですか。

B 昭和六十年からで、もう十三年になります。A どんな人達がすすめていますか。

B 国・県・沼津市とJR東海・JR貨物が協議をしながらすすめています。そして市民の会が支援しています。

A 駅が二階になるのですか。

B 改札口が一階でホームが二階となります。

A 一階を自由に往来できるのですね。

B 南と北の街がつながります。A 今日は駅の話聞きたいのですが。

B 今の沼津駅は南北で約二百二十メートルあります。

A どうしてですか。

B 昔、沼津と国府津間は急傾斜を上り下りする区間だったため、列車はすべて沼津駅に停車して、特別の機関車と入れ替えた

り、石炭、水の積み込み設備などが設けられたりしていました。又、丹那トンネルの開通により東海道線の東京沼津間が電化されましたが、沼津以西が電化されるまでの間、蒸気、電気両機関車の交換

駅として、広い土地が必要だったので。

A 蛇松線も乗り入れていましたね。

B 沼津港に入って来る、特に魚とか西伊豆からの荷物を運んでいました。

A 御殿場線も入っていますね。

B もともと東海道線は国府津から御殿場を回って沼津まで来ていました。

A 今は単線ですが。

B 太平洋戦争中の末期に単線になりました。

A 東海道線の今のルートは。

B 丹那トンネルが昭和九年にできてからです。

A それで沼津駅が複雑になったのですか。

B 東海道線の中でも重要な駅であったのです。

A 高架化が実現するとうりになりますか。

B 線路を整理すると、南北が約七十メートル狭くなって、南北の交通が便利になり、鉄道の跡地も有効利用できます。

A 駅北の鉄道跡地はどうなりますか。

B 平成八年度に県と沼津市が取得し、残りについては地域振興整備公団が取得する予定です。

A どの様に利用するのですか。

B 新しいまちづくりのために道路や人が集まる施設、また駐車場などをつくりま

す。

A 上がった鉄道の下の利用は。

B JR東海のものですが、その一五パーセントは市が無料で利用できます。

A 駅はどうなりますか。

B 改札口は高架下に入り、広く明るいコンコース(通路)ができ、ホームへの上り下りも楽になります。

A 今は駅を通過すると百四十円かかりますが。

B 無料で南北を自由に行き来できるようにします。

A バス停は。

B 直接駅前広場に乗り入れられ便利になります。

A 駅前広場は。

B 南口は現在の約二倍になり、北口にも同じくらいの広場が設けられます。

A 高架化される長さはどのくらいですか。

B 東海道本線は浪人川付近から大諏訪までの約三・九キロメートルです。又、御殿場線も浪人川付近から沼津駅までの約一・六キロメートルです。

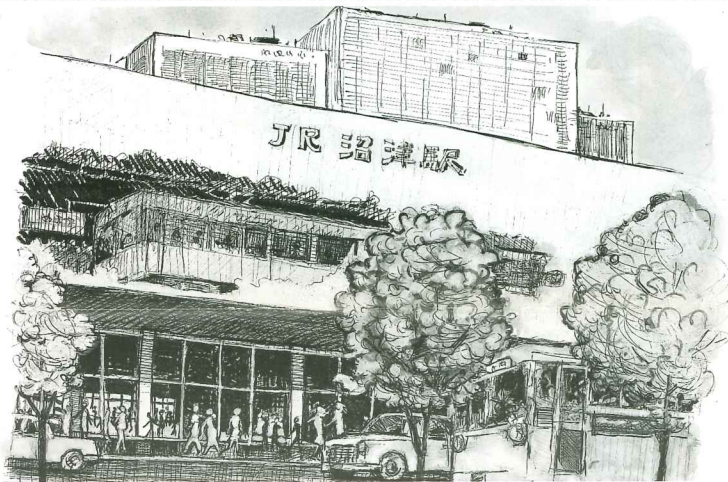
A 工事の手順が大変ですね。

B 電車は止められませんが、はじめに貨物駅や車両基地を移し、順番に高架の工事をしていきます。

A 沼津駅の高架計画は進んでいますか。

B 着実に進んでいます。段々と目に見えて来ます。又、一緒に勉強しましょう。

私



私が描く沼津駅想像図(談話室記事より)

まちづくり Q&A

Q 多目的展示イベント施設って何ですか。

A 沼津駅のすぐ北側にできるいろいろの展示や催物のできる建物のことです。

Q どこが作りますか。

A 沼津市です。

Q 建設事業費は。

A 九億三千万円です。

Q その役割は。

A 県東部の広域的な経済・文化の交流と活性化を目指します。

Q その効果は。

A 沼津市の中心に「活気」と「

ぎわい」を取り戻します。

Q どこで運営管理しますか。

A 沼津市振興公社を予定しています。

Q イベント会場の大きさは。

A 市民体育館のアリーナ(室内競技場)の約二倍の面積があります。

Q 建物のつくりは。

A 鉄骨平屋建で、かまぼこ型の屋根を膜で覆ったドームです。

Q いつまで使いますか。

A この施設は、都市機能集積の先駆けとして、又、その実験の場として考えています。今後、沼津駅周辺総合整備事業の進捗状況をにらみながら使っていきます。

Q 利益はどうですか。

A 公共施設であるため利益を追求するものではありませんが、最低の支出で賄うよう行っています。

Q だれでも使えますか。又、借りられますか。

A はい。

Q 駐車場はありますか。

A 三百五十台分あります。

Q 一日借りるといくらですか。

A 一日使用した場合の使用料は、全面で三十九万円、半面で二十万円を予定しています。

Q 申し込みは。

A 一年前から、すでに仮受付をしています。

Q いつから使えますか。

A 戦災復興土地区画整理事業等の都市基盤整備事業のスケジュールをはるかに超えた、「沼津の歴史を変える大きな事業」になると思われます。

Q 今までは、「沼津駅が高架化されると、南北に分断されていた道路網が一体となって、交通の流れがよくなり便利になる」そんな一面のみの理解でしたが、

鉄道高架というものは、単に鉄道を高架にすることだけではなく、新しい機能を導入し、まちを生まれ変わらせる「まちづくり」と認識を新たにしております。

現在利用されていない鉄道路地が活用され「沼津のにぎわい」が創出されると信じております。

今まで、都市の改造はほとんど不可能と考えておりましたが、

た戦災復興土地区画整理事業等の都市基盤整備事業のスケジュールをはるかに超えた、「沼津の歴史を変える大きな事業」になると思われます。

今後は、「沼津駅が高架化されると、南北に分断されていた道路網が一体となって、交通の流れがよくなり便利になる」そんな一面のみの理解でしたが、

鉄道高架というものは、単に鉄道を高架にすることだけではなく、新しい機能を導入し、まちを生まれ変わらせる「まちづくり」と認識を新たにしております。

現在利用されていない鉄道路地が活用され「沼津のにぎわい」が創出されると信じております。

今まで、都市の改造はほとんど不可能と考えておりましたが、

た戦災復興土地区画整理事業等の都市基盤整備事業のスケジュールをはるかに超えた、「沼津の歴史を変える大きな事業」になると思われます。

今後は、「沼津駅が高架化されると、南北に分断されていた道路網が一体となって、交通の流れがよくなり便利になる」そんな一面のみの理解でしたが、

鉄道高架というものは、単に鉄道を高架にすることだけではなく、新しい機能を導入し、まちを生まれ変わらせる「まちづくり」と認識を新たにしております。

現在利用されていない鉄道路地が活用され「沼津のにぎわい」が創出されると信じております。

今まで、都市の改造はほとんど不可能と考えておりましたが、

A 平成十年十月からです。Q どんなことに使えますか。A 展示会・見本市・集会・各種

現地レポート

掛川駅北土地区画整理事業を視察し、沼津駅の高架化と土地区画整理の早期着工のお願い



沼津米穀卸 矢田 利雄

昨年十月、掛川市に土地区画整理事業の実態を視察に行き、掛川市の成長ぶりに驚きました。人口七万八千人の所に、沼津のまちづくりにとって、正に千載一遇の好機として夢ではなく、期待をしております。

今後、「まちづくり」に取り組んでいく過程では、難しいハードルを幾つも超えなければなりません。沼津駅周辺総合整備事業は、二十一世紀に向けた「にぎわいと活力」を生み出すことが期待できる事業と信じ、「市民の皆様方とともに明日に向かって歩んでまいりたい」。

今を生きる私たちが、未来に生きる子供たちのために、

(沼津観光協会会長)

イベント・スポーツ大会などに使えます。(市民の会調べ)

私は沼津で生まれ、沼津で育った人間ですが、今、静岡県で一番時代に遅れている町が沼津市に思われてなりません。それは、あまりにも気候も温暖で生活環境も良すぎ、新しい物への切り替えの発想が出来なかつた事が一番の原因に思われます。

私は、沼津市には素晴らしい資源があると思っています。それは沼津市の中心を流れている狩野川、その河口には千本松原海岸、そして御用邸・海水浴場、又、沼津市のシンボルとして前市長が提案した桜名所の香貴山です。

このように沼津市には川・海・山と三拍子揃った素晴らしい資源があるのに、フルに発揮されていないように思われます。

高架化なくして 発展はない

更に沼津駅の高架化を一日も早く実現に向かって進めなくては、沼津市の発展はないと言っても過言ではないでしょう。

沼津市の顔、駅の高架化をつくとともに駅前の区画整理事業を進め、市役所、商工会議所が先に立って中小企業・商店街として市民の皆さんが将来安心して生活出来るまちづくりに力を入れていってほしい。

二十一世紀に向かって、沼津市民一体となり、和の心と共存共栄の心で進み、一日も早く高架事業を成功させて頂きたいと思

います。

沼津市の顔は、やはり掛川城だと思えます。駅を下りれば目の前に城が見え、歩いて十分足らずの所に、それぞれ城下町の個性を生かしたお店が営業をしている。そして、区画整理事業によって歩道も車道も広く出来ていて大型車両は進入し

こず、静かに歩くことを楽しむことができる心とむ町でした。

このまちづくりで感じた事は、県と市、特にそこに住む住民が一致団結してやっを行かなければ、掛川市の様な立派なまちづくりは出来るわけではないと思

います。

沼津市の顔は、やはり掛川城だと思えます。駅を下りれば目の前に城が見え、歩いて十分足らずの所に、それぞれ城下町の個性を生かしたお店が営業をしている。そして、区画整理事業によって歩道も車道も広く出来ていて大型車両は進入し

こず、静かに歩くことを楽しむことができる心とむ町でした。

このまちづくりで感じた事は、県と市、特にそこに住む住民が一致団結してやっを行かなければ、掛川市の様な立派なまちづくりは出来るわけではないと思

います。

沼津市の顔は、やはり掛川城だと思えます。駅を下りれば目の前に城が見え、歩いて十分足らずの所に、それぞれ城下町の個性を生かしたお店が営業をしている。そして、区画整理事業によって歩道も車道も広く出来ていて大型車両は進入し

こず、静かに歩くことを楽しむことができる心とむ町でした。

このまちづくりで感じた事は、県と市、特にそこに住む住民が一致団結してやっを行かなければ、掛川市の様な立派なまちづくりは出来るわけではないと思

います。

沼津市の顔は、やはり掛川城だと思えます。駅を下りれば目の前に城が見え、歩いて十分足らずの所に、それぞれ城下町の個性を生かしたお店が営業をしている。そして、区画整理事業によって歩道も車道も広く出来ていて大型車両は進入し

こず、静かに歩くことを楽しむことができる心とむ町でした。

このまちづくりで感じた事は、県と市、特にそこに住む住民が一致団結してやっを行かなければ、掛川市の様な立派なまちづくりは出来るわけではないと思

います。

沼津市の顔は、やはり掛川城だと思えます。駅を下りれば目の前に城が見え、歩いて十分足らずの所に、それぞれ城下町の個性を生かしたお店が営業をしている。そして、区画整理事業によって歩道も車道も広く出来ていて大型車両は進入し

こず、静かに歩くことを楽しむことができる心とむ町でした。

このまちづくりで感じた事は、県と市、特にそこに住む住民が一致団結してやっを行かなければ、掛川市の様な立派なまちづくりは出来るわけではないと思

います。

沼津市の顔は、やはり掛川城だと思えます。駅を下りれば目の前に城が見え、歩いて十分足らずの所に、それぞれ城下町の個性を生かしたお店が営業をしている。そして、区画整理事業によって歩道も車道も広く出来ていて大型車両は進入し

こず、静かに歩くことを楽しむことができる心とむ町でした。

このまちづくりで感じた事は、県と市、特にそこに住む住民が一致団結してやっを行かなければ、掛川市の様な立派なまちづくりは出来るわけではないと思

います。

沼津市の顔は、やはり掛川城だと思えます。駅を下りれば目の前に城が見え、歩いて十分足らずの所に、それぞれ城下町の個性を生かしたお店が営業をしている。そして、区画整理事業によって歩道も車道も広く出来ていて大型車両は進入し

こず、静かに歩くことを楽しむことができる心とむ町でした。

このまちづくりで感じた事は、県と市、特にそこに住む住民が一致団結してやっを行かなければ、掛川市の様な立派なまちづくりは出来るわけではないと思

います。



沼津市 アピール する時、 「富士山」奥駿河、

私の主張

「明日に向かって」

市民の会副会長 大木 理久夫

沼津を

アピール

する時、

「富士山」

奥駿河、

白砂青松」の定冠詞は欠かせない。そんな沼津の四季折々の魅力、「おいしいぬまづ」を全国津々浦々に発信しております。

さて、沼津の街の「にぎわい」は鉄道で分断され、様々な弊害を及ぼしております。過去を振り返れば「鉄道を高架にして……」という夢が、

この活動を通じて、沼津駅周辺総合整備事業は、幾つかの事業が有機的に結合する「大型プロジェクト」と認識しております。

過去、実施されてまいりました

不可可能と考えておりましたが、

た戦災復興土地区画整理事業等の都市基盤整備事業のスケジュールをはるかに超えた、「沼津の歴史を変える大きな事業」になると思われます。

今までは、「沼津駅が高架化されると、南北に分断されていた道路網が一体となって、交通の流れがよくなり便利になる」そんな一面のみの理解でしたが、

鉄道高架というものは、単に鉄道を高架にすることだけではなく、新しい機能を導入し、まちを生まれ変わらせる「まちづくり」と認識を新たにしております。

現在利用されていない鉄道路地が活用され「沼津のにぎわい」が創出されると信じております。

今まで、都市の改造はほとんど不可能と考えておりましたが、

た戦災復興土地区画整理事業等の都市基盤整備事業のスケジュールをはるかに超えた、「沼津の歴史を変える大きな事業」になると思われます。

報告

まちづくりセミナー

共生のまちづくり

沼津ピア代表 鳥羽山 信子

我が国は、長らく経済の効率性、利便性を追求してきたこれまでの生活環境を見直し、高齢者、障害者を含む全ての人が家庭や地域で共に暮らし、普通の生活が送れる社会に再構築する必要に迫られ、この実現に向けて諸策が進められつつあります。

講演の中で松本先生は「様々な障害を持つ人々に配慮した生活基盤の整備は、これからのまちづくりに欠かせない視点である。近頃、公共建築物にエレベーターやスロープが設置されたり、民間交通機関の駅舎の改良やノンステップバスの導入など、かなり評価できるようになった。一方、駅にエスカレーターが付



まちづくりセミナー講演会

けられ便利になったが、大きな荷物を持った人は利用できない、点字ブロックが環境に合わないとの理由で色を変えたことで識別しにくくなったり、環境がハンディを作っている。環境がきちんと対応すればハンディはな

くなる。人にやさしいということとは実感として難しい。まちづくりには国が定めた基準があるが、それを使うことで良くなるとは限らない。一人ひとりの人間が気持ち良く住む方法としてバリアフリーがあり、法律(ハートビル法)がある。自分たちの町について学習し、話し合い、二十年後、三十年後に『良かったね』と言えるまちづくりをして欲しい。」と話されました。

福祉の進んだ北欧諸国では、「人は時と場合によって障害者にも健全者にもなり得る」という共通認識があり、それが人々の意識、制度や施策、まちづくりに反映されていると聞きます。乳母車を押す母親をハンディキャップとみなし、バリアーなしで外出できるように、高層住宅へのリフトの義務付け、道路、駅、公共建造物や商店の段差や障害物の除去、乳母車ごと乗れ

る公共交通機関などに、健常者の視点だけでは築けないまちづくりが進められてきたと言われています。

我が国の障害を持つ人の七割が疾病や労働災害、交通事故や戦傷戦災、その他の事故と、統計が出されています。

誰でも乳母車を押す母親、父親となり得ること、誰でも病气や事故、老齢などの理由によって車椅子の生活となり得る可能性があることに気付くことで、人間として同じ基盤に立てば、平等に社会参加できるまちづくりが考えられていくものと思います。

今、沼津は土上再開発事業の完成、中央公園と香貫地区を結ぶ歩行者専用橋、多目的展示イベント施設の建設へと多彩な顔を持った空間が作られ始めています。

まちづくりには住民の福祉の向上を念頭において「町は人々が集まり、生活し、交流する場所である」という原点を確認しながら、住民自らが参加し、つくりあげていきたいものです。

会の動き

〇定時会員総会

七月十六日、ブケ東海。平成八年度事業報告及び収支決算、平成九年度事業計画及び収支予算承認

講演 「住民参加のまちづくり」

講師 財区画整理促進機構

顧問 山野 宏氏



石川県知事への陳情

〇正副会長会議

第一回 七月七日 (於 商工会議所)

総会提出議案検討

第二回 十月二十一日 (於 商工会議所)

多目的展示イベント施設について 第三回 一月九日 (於 商工会議所)

沼津駅周辺総合整備事業の取り組み状況報告及び県知事等への年始挨拶について協議

〇先進地視察

十月三十日、掛川市、掛川駅北土地区画整理事業についての説明及び現地視察、掛川城、掛川市生涯学習センター、由比本陣公園見学、二十九名参加

〇まちづくりセミナーの開催

二月二十七日、東急ホテル、参加者百二十名

①多目的展示イベント施設について

説明者 沼津市都市計画部沼津駅周辺整備事務局

拠点施設整備課長

芹澤 隆良氏

②人にやさしいまちづくり

講師 大妻女子大学

助教授 松本 暢子氏

〇陳情

一月十三日、県庁を訪ね、鉄道高架事業の推進について、石川県知事・県議会議長、副知事・出納長・総務部長・都市住宅部長等に陳情。

沼津市長、市議会正副議長、市議会鉄道高架化促進特別委員会正副委員長及び委員、市民の会正副会長、常任委員代表等、総勢二十七名が参加。

〇沼津駅周辺総合整備事業三者懇談会の開催

一月十三日、ホテルセンチュリー静岡。県知事等への陳情後、静岡にて「市・市議会・市民の会」による懇談会を行い、陳情結果をもとに今後の対応について協議。

〇広報啓蒙活動

広報看板の掲出、市営香貫駐車場西側壁面と沼津商工会議所前柱。



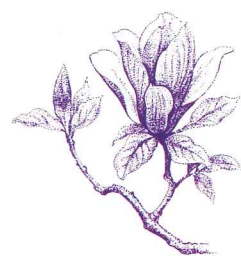
川口県議会議長への陳情

最近の経済の動向は非常に厳しい状況を示している。民間の絶対に安泰と見られていた各業種の大企業倒産に始まり、県事業も大型長期プロジェクトの見直しなど、財政不安による影響が出て来ている。私達も身近に高齢化と少子化の時代を控え、その対応が最優先の課題として取り上げられている。

この様に社会情勢に不安材料の広がる中で、沼津駅の高架化と周辺の整備という長期にわたる大命題にとって、社会環境は厳しい時代を迎えている事に間違いはない。

しかし、沼津市の命運を左右するこの事業にとつて最後のチャンスであり、この期を逃すことは後世に大きな悔いを残すことになりかねないと取材の中で痛感した。市・議会・市民一丸となって早期実現に向け力を結集する必要性を感じている。

広報紙「かけはし」は十二号より全面的に衣替えをした。活字を大きく見やすく親しみ易い紙面づくりを心掛けた。(〇)



編集後記